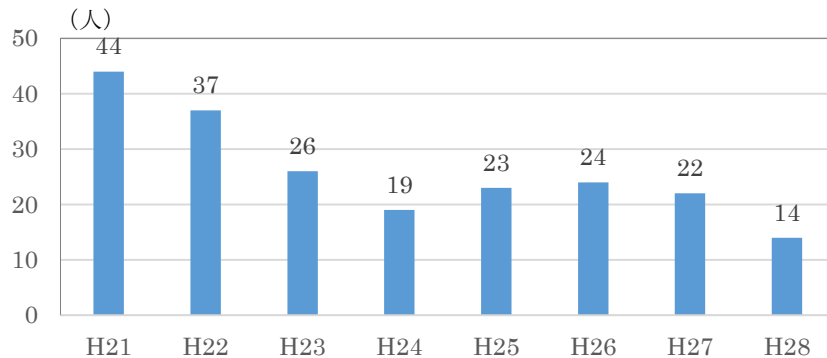


## 小樽市の自殺の現状

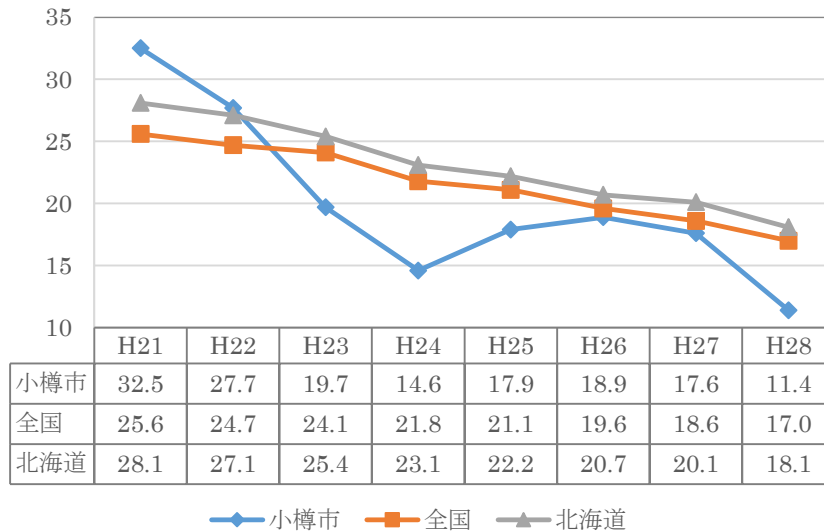
### 1 自殺者数、自殺死亡率の特徴

- 自殺者数は減少の傾向にあり、平成 28 年は 14 人。  
自殺死亡率も同様の傾向で、平成 28 年は 11.4 となっている。
- 自殺死亡率は、全国、北海道と比べて低くなっている。
- 男性は、20 歳未満と働き盛りの 30 歳代から 50 歳代が全国に比べて自殺率が高い。  
女性は、40 歳代が全国、全道に比べて高い状況。
- 平成 24 年から 28 年の自殺者の合計のうち、60 歳以上が約 3 割を占めている。

#### ① 自殺者数の推移 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



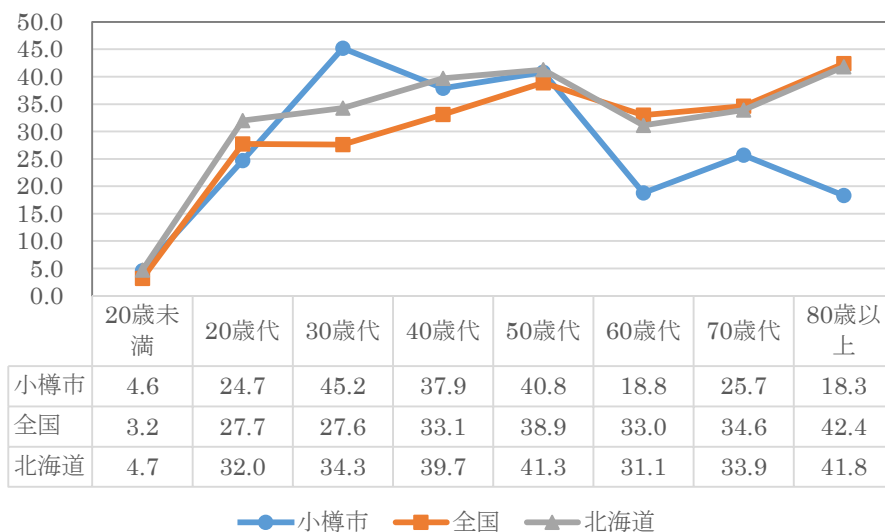
#### ② 自殺死亡率 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



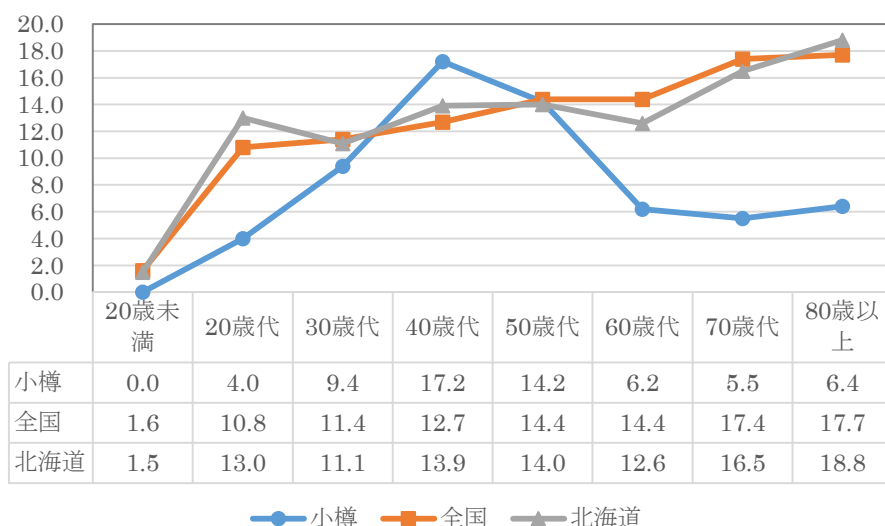
#### 警察庁「自殺統計」と厚生労働省「人口動態統計」について

	警察庁「自殺統計」	厚生労働省「人口動態統計」
調査対象者	総人口（日本における外国人も含む）	日本における日本人
調査時点	発見地を基に自殺死体発見時点	住所地を基に死亡時点
事務手続き上 (訂正報告)	死体発見時に自殺、事故等が不明な時は、捜査等により自殺と判明した時点で計上	自殺、事故等が不明な時は自殺以外で処理し、死亡診断書等について作成者から自殺への訂正報告がない場合は、自殺に計上していない。

③ 男性の年代別自殺率（平成 24～28 年）（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）



④ 女性の年代別自殺率（平成 24～28 年）（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）



## 2 小樽市の自殺の特徴

- 自殺総合対策大綱において、国は地方公共団体による地域自殺対策計画の策定を支援するため、自殺総合対策センターが地域の自殺の実態を分析した「自殺実態プロフィール」を作成することとなりました。
- 自殺総合対策推進センターが、平成24年から28年までの5年間における小樽市の自殺の実態について性、年齢、職業の有無、同居・独居の特性について分析した「自殺実態プロフィール」において、小樽市の自殺者全体に占める割合が多い5区分として、表1のとおり示されました。

表1 自殺の主な特徴（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール（2017）」）

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位: 男性 40～59歳有職同居	13	12.7%	25.1	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位: 男性 60歳以上無職同居	13	12.7%	22.5	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
3位: 男性 60歳以上無職独居	7	6.9%	52.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
4位: 男性 20～39歳有職同居	7	6.9%	23.8	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
5位: 女性 40～59歳無職同居	7	6.9%	20.3	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

\*順位は自殺者の多さに基づき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順となっています。

\*自殺率の母数(人口)は、平成27年国勢調査を元に自殺総合対策センターにて推計。

\*「背景にある主な自殺の危機経路」は、自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考に、生活状況別の自殺に多くみられる全国的な自殺の危機経路を例示しています。

### 3 地域自殺実態プロフィール(2017)で推奨された重点課題

□ 地域自殺実態プロフィールで示された自殺の主な特徴(表1)に基づき、上位3区分の性・年代別特徴と「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に、小樽市が重点的に取り組む課題として、以下の3点が示されています。

- ① 勤務・経営      ② 高齢者      ③ 生活困窮者